



実践桜会 生活文化科会 生活文化学科同窓会 2023年3月 発行 No.4

ご退官・ご退職の先生方から同窓生へ

南雲 成二先生

☆☆『実践女子大学 生活文化学科 卒業生の皆様へ感謝!!』☆☆

2023年1月21日(土)は、お忙しい中を直接駆けつけてくださった方々、ZOOMでご参加くださった方々、当日仕事で参加が厳しい中温かいメールを届けて下さった方々、誠に誠にありがとうございました。とても、とても嬉しかったです。南雲流にお伝えすれば、同窓生の皆様から『げんき・こんき・ゆうき』をいただき、『やるき』と『ほんき』をパワーアップさせてもらいました。保育・教育・療育にかかわる(=日々の暮らし・生活・人生・命=LIFE) 根源的エネルギーを感受させていただいたと表現してもいいです。決して大袈裟ではなく……。『生活文化フォーラム27号(2023年2月刊)』のp30~p31に「退職教員のあいさつ：生活文化学科の思い出」を書かせていただきました。その2頁に「南雲の想いと願い」を届けました。タイトルは『生活文化学科幼児保育・児童(初等)教育「幼小コース」誕生から十年の歩み～回想と展望～』です。35年間にわたる小学校勤務(国立附属小12年間+公立小23年間)を終えた後、深いご縁をいただき実践女子大学生活科学部生活文化学科の教員となれて本当に幸せでした。生活文化学科に集う皆様の「人間としての誠実さと優しさ」、これは「生涯を貫く宝物」です。



瀬江 容子先生

若き後輩へのメッセージ

実践女子大学での学生の皆さまや先生方から素晴らしい時間を与えて頂いたことに心から感謝して、高齢者瀬江から若い方々へメッセージをお送りしたいと思っております。

長い人生を生きていくと、様々な出来事に遭遇します。それが自分の人生において時として不幸な経験と感じる事にも出てきます。いかなる事柄も、それがどの様なものであれ失敗の原因でも成功の原因でもないといえます。Alfred Adlerの言い方を借りれば、“私たちはその出来事に対してどの様な意味づけをするか”によってその後の生き方が変わってくることになるのです。すなわち、私たちは、その出来事や経験に対して与える意味によって自らを決定するといえます。「原因論」では、過去の出来事が今の自分を決定しているのだから自分を変えることはできません。しかし「目的論」では、立てられる目的や目標は未来にあり、どの様な出来事があってもそれを糧として自分の未来を変えることができるのです。過去を振り返るのではなく未来の自分と向き合い、自分自身の素晴らしい未来を創り続けていってほしいと思います。



松田 純子先生

生活文化学科卒業生の皆さん、お元気ですか。また春が巡ってきました。私事ながら、今春をもって早めに職を辞し、故郷熊本に帰ることになりました。18歳の時、大学入学を機に東京に出てきましたが、初めて親元を離れ上京する当時の希望と不安の入り混じった気持ちは今でもよく覚えています。下田歌子先生も18歳で故郷岩村を後にし、東京に旅立たれる際、国境の三國山の峠で次の歌を詠まれたといえます。

旅歸着て帰らずは 三國山 またふたたびは 越えじとぞ思ふ

上京時の私の覚悟は、下田先生とは比べべくもないものでしたし、今、故郷に帰ることになり、改めて振り返ってみると、とても錦を着て帰る(故郷に錦を飾る)ことなどできないなと思ってしまう。しかし、これまで様々な幸運に恵まれ、多くの方々との貴重な出会いがありました。なかでも、実践女子大学での19年間で、素敵な学生の皆さんと出会い、たくさん学びと思い出をいただきました。心から感謝いたします。ありがとうございました。

皆さん、どうぞお元気で益々のご活躍を。熊本から応援しています。

越山 沙千子先生

生活文化学科卒業生の皆さんへ
ご無沙汰しております。音楽教育の越山です。お元気でいらっしゃいますか。生活文化学科には、2018年度より5年間お世話になりました。皆さんから多くの刺激を受け、学ばせていただいた充実の5年間でした。音楽室や研究室で笑ったり、喜び合ったり、一緒に悩んだりした沢山の思い出が、昨日の間のように思い出されます。そして、皆さんがそれぞれの道で活躍されていることを心から嬉しく思います。

音や音楽にかかわる活動で、子どもたちと存分に楽しんでますか?忙しくて弾き難いが目録になってしまってますか?音や音楽との出あい、感じ方が一人ひとり違うからこそ、大切に、丁寧に向き合ってほしいと思います。いつも応援していますので、困ったら遠慮なく実践メールにご連絡ください。またどこかでお目にかかれまして嬉しいです。5年間、ありがとうございました。



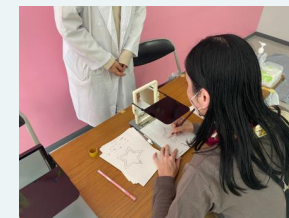
常磐祭に行ってきました♪

令和4年11月12日と13日に、穏やかな天気のもと常磐祭が行われました。コロナ対策がある中でも対面の活動が増え、学生たちと来場者が関わる姿を見ると、少しずついつもの常磐祭に戻つつある様に感じました。今回は、生活文化学科の学生の皆様の様子をお伝えいたします。

心理専攻では、毎年恒例の心理実験コーナーや長崎ゼミの研究発表とカルピスコーナーなどがあり、来場者にも大盛況でした。卒業後、久しぶりに行う心理実験は、懐かしい気持ちでいっぱいでした。研究発表の展示を見ると、学生の皆さんと先生方の研究に向き合う熱量を感じました。

幼児保育専攻の学生たちは、パネルシアター同好会の演目やカブラ体験、グランド奥の芝での坂滑りコーナーなど、地域の子どもたちや保護者の皆さんに大人気のコーナーがありました。こちらも、学生と子どもたちの楽しそうな声が多く聞こえ、改めて地域に根付いた学科であると感じることができました。

まだまだ、コロナ対策がある中でしたが、明るくパワフルな後輩たちの姿を見て、学ぶことの素晴らしさや行動を起こす勇気などを味わうことができました。令和5年度もきっと実施されると思いますので、ぜひ、思い出の校舎と共に後輩たちの学びを感じてみてください。



●役員紹介

- ・会長 北村 はるか
- ・副会長 坂本 志穂
- ・会計 足立 奈津絵
- ・広報 伊藤 智春

◎連絡先の変更・問い合わせはこちらへ

ji.seibun.og@gmail.com

※個人情報、生活文化科会にて、慎重かつ厳重に管理致します。

※同窓会や科会のご案内が届かない同窓生が多くいらっしゃいます。ぜひ、ご連絡先を科会までご連絡ください。

メールやFacebookにて情報をお届け致します。



←実践生活文化科会
Facebook